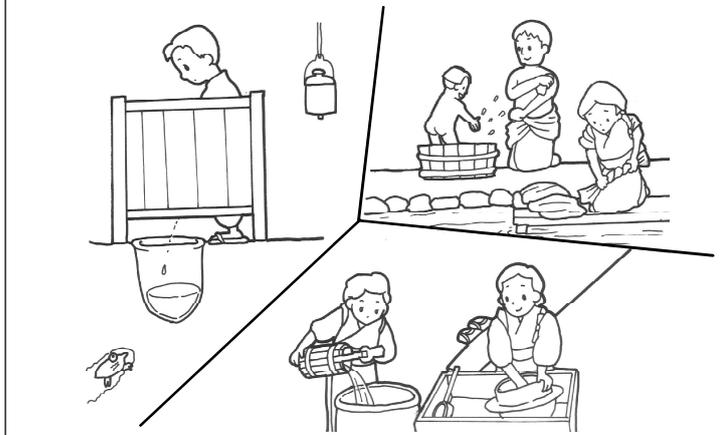


名前

くらしの水について考えよう

昔

水道がなかったころ、どんなくらしだったでしょうか。絵を見て考えてみましょう。



今

今のくらしはどうか変わったでしょうか。みんなの家で水を使う場面ばめんを思い出して、絵や言葉でかいてみましょう。

むかし、家の中でつかう水はどうやって手に入れていたのでしょうか。「むかしのくらし（しりょうへん）」でしらべて、書いてみましょう。

むかしのくらしの水について、しらべてわかったことや、民家園でかくにんしたいことをまとめておきましょう。

くらしの水 (しりょうへん)

名前

水道がなかったころ、どのように水を手に入っていたのでしょうか。昔の民家に住んでいた人たちに教えてもらいました。どの民家のお話か、民家園の園内マップでかくにんしてみよう。



山田さんの家のミズブネ

ようすい
用水から引いた川の水をつかいました。のみ水にもあらいものにも同じ水をつかっていたので、のみ水は早朝か夜おそくにくんで、カメに入れておきました。
(広瀬さん)



佐々木さんの家の井戸

竹のつつをつかって、山の水を家の中のミズブネに直接ながれるようにしていました。あふれた水は家の前の池 (写真) にながれこみ、この池ではせんたくをしたり野菜をあらったりしていました。
(江向さん)



井岡さんの家のミズガメ

井戸ができる前は、水は近くの川の上流からおけでくんでいました。昭和29年(1954)ごろ、井戸をほり、のみ水にしたり、家畜にやったりもしました。
(工藤さん)



江向さんの家の前の池 (昔のようす)

ミズガメをいっぱいにするためには、何おうふくかしなければなりません。はこぶのにはテンピンをつかいました。
(岩澤さん)



水などをはこんだテンピンとおけ

くらしの水を かんがえる ポイント!

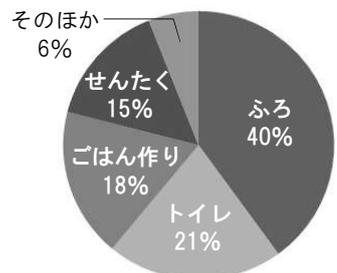
1955年～1973年ごろに水道が広まって、私たちのくらしはべんりになりました。そして水をたくさんつかってくらすようになりました。毎日、どのくらいの水を使っているのかグラフで見てみましょう。

1人が1日につかう水のりょう(2015年)
やく219リットル



2リットルのペットボトルだと、やく109本分!

何に使っているのかな?



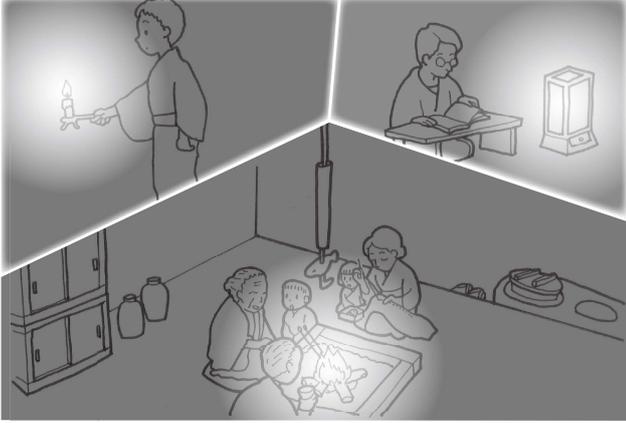
東京都水道局 2015年度 一般家庭水使用目的別実態調査より

名前

暮らしの **あかり** について考えよう

昔

てんとう
電灯がなかったころ、どんな暮らしだった
でしょうか。絵を見て考えてみましょう。



今

今の暮らしはどうか変わったでしょうか。
みんなの家であかりをつかう場面ばいめんを思い
出して、絵や言葉でかいてみましょう。

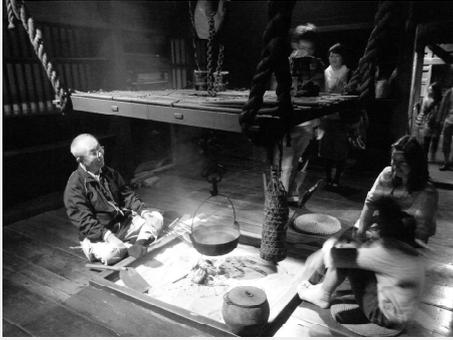
おかしは、どのようなあかりをつかっていたのでしょうか。
「おかしの暮らし（しりょうへん）」でしらべて、書いてみましょう。

おかしの暮らしのあかりについて、しらべてわかったことや、
民家園でかくにんしたいことをまとめておきましょう。

昔のくらしのあかり(しりょうへん)

名前

電灯でんとうがなかったころ、どのようなあかりをつかっていたのでしょうか。昔の民家に住んでいた人たちに教えてもらいました。どの民家のお話か、民家園の園内マップでかくにんしてみましょう。



えむかい 江向さんの家のいろり

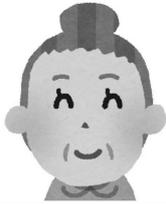
雪がつもったり雪がこいこいをしたらすると、昼でもまっくらになり、あかりがひつようになる。停電ていでんのあいだはガラスのロッカク(六角アンドン)でロウソクをともした。アンドンやランプ、カンテラもすみやきごや小屋でついていた。(野原さん)



すがわら 雪がこいをした菅原さんの家



ランプをつけるのは作業さぎょうにさしつかえるときだけだった。食事しょくじのときはつけても、すんだらけしてしまう。ふだんはいろりの火があるだけだった。便所べんじょは外にあった。ロウソクなどはなかったので、かようときはヒョウビアブラをともしてさげていった。「ヒョウビアブラ」とは、ヒョウビ(イヌガヤ)の実をしぼったもの。これをひょうそく(写真)に入れ、灯心とうしんをさしこんで火をともした。このほか、アンドンもつかった。(山下さん)



アンドン



いとう 伊藤さんの家のランプ

しょうわ 昭和3年(1928)に電気が入る前は、「つるすランプ(石油ランプ)」だった。しかし、ランプせきゆのない家せきゆもあり、そうした家では石油を皿さらに入れてポーっともやしていた。(工藤さん)



あぶら 油で火をともす油皿



ひょうそく

くらしのあかりを
かんがえる

ポイント!

人とあかりのれきしは、ぐうぜん手に入れた火でたき火をしたことがはじまりといわれています。それからげんざいまで、あかりはどのようにかわってきたのか年表で見てみましょう。

火のあかりのじだい

電気のあかりのじだい

木をもやす

油やろうそくをもやす

石油やガスをもやす

電気をつかう

・100 万年以上前

・江戸時代(1603～)
植物の種や魚から作られた油
ロウソクが広まる

・江戸時代終わりごろ(1853 年ごろ)
石油ランプが日本に伝わる
・明治5(1872) 年
ガス灯の登場

・1800 年代に電灯が発明される
・白熱電球
・蛍光灯
・LED